

美術科の主張

1 教科で育みたい人間像

美術という教科を学ぶことにより、人々の生活はどのように変化するのでしょうか。画家や建築家、イラストレーターなど、造形表現に携わる専門家になるのであれば、美術の授業で学んだことを直接的に生かしていくことができそうです。しかし、このような専門家を育成することが中学校美術科の役割ではありません。表現活動や鑑賞活動の美術の学びを通して、心豊かに人生を送ってほしいというのが美術科の願いです。

美術科で目指す心の豊かさを獲得するためには、「感性」が重要な役割を果たすと考えます。感性とは、「物事を心に深く感じ取る感覚」であると考えられています。美術科では特に、対象のもつ美しさや生命感、心情、精神的・創造的価値といったものについての感性を中核としています。

何かを表現したいということや美しいものを求めようとすることは人間にとって自然な欲求だと思っています。人々の生活の中で、何かをつくったり

(表現)、造形的な何かと向き合ったり(鑑賞)する行為のあるところには、大小の差こそあれ、感性が働いています。その中で、価値あるものを生み出すためには、自分自身を知り、他者とのかわりが必要になるでしょう。創造活動における、イメージすることや感じる、問題解決していくことなどの過程においてこそ、感性は磨かれていくのだと思います。そうした経験を重ねて磨かれた感性は、さらに美しいものやよりよいものへの欲求を強めていくのではないのでしょうか。そんな人こそ、表現や鑑賞を通して、自分と向き合うとともに他者や世の中を理解しようとする姿勢をもち続け、自らの人生を豊かなものにしていくと考えています。

以上のことをふまえ、今年度、美術科で育みたい人間像を、「感性豊かに生きていく人」としました。

2 私たちが大切にしたいこと

①創造活動の喜びを味わえる題材を考えること

表現であれば、自らが理想とするイメージがひらめいた時や、理想とするイメージを具体化できた時に創造活動の喜びを味わえるのだと思います。また、制作途中で新たな考えが生まれ、最初にイメージしたものよりも、よいと思える形を生み出すことができれば、これも喜びになるはずです。

鑑賞活動では、想像力を働かせて対象を見ることで、作品に対する見方を深めたり、自分にとっての新たな価値をつくり出したりしたときに喜びを味わうことができるのだと思います。

授業で、創造活動の喜びを味わうためには、表現したい、おもしろいと感じられる題材を提示することにより、子どもたちは意欲的に取り組むことでしょう。そのような題材にしていくために、まずは授業者が、その魅力を肌で感じ、よさを伝えたいという思いをもって授業に臨まなければいけません。その上で、描画材料や表現主題を吟味し、題材展開を考えていきたいです。

②視点を明確にしたかかわり合いをもつこと

美術科における創造活動というものは基本的に個性が尊重されてよいものだと思います。しかし、価値あるものを生み出すためには、他者の感性を認め、受け止めようという姿勢が求められます。仲間の表現や考え方を理解しようとすることは自分の考えを広げることになるでしょうし、自分の表現や考えに対して他者がどう感じるかを知ることでも自分の考えを深めることになるはずです。

例えば構想段階では、参考作品について互いの考えを伝え合うことで、その作品のよさについてだけでなく、何を大切に制作を行っていくかについても共有していくことができるでしょう。そして、それぞれの考えや表現を深めるためには、かかわる時の視点を明確にすることが必要だと考えます。作品主題についてのことや表現材料の特徴についてのことなど、話題とする視点を明確にもってかかわることで、それぞれの個の高まりを生み出す授業構想を考えていきたいです。